



2021

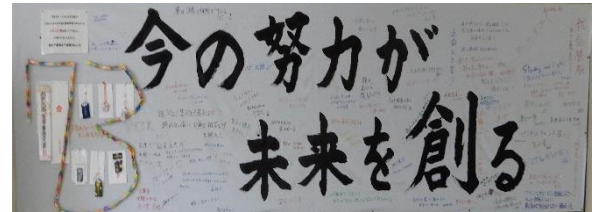
研究推進部長 丹生 憲一

新しい年が明けました。しかし、新型コロナウイルスはいまだに暗い影を落としています。帰省の自粛が呼びかけられ、初詣も時間・入場制限がかかり、丹波市では成人式が延期されました。年明け早々に緊急事態宣言が出され、特に受験を控えた3年生は不安が大きいことと思います。用心すべきことは用心し、不必要に恐れることなく、自分の持てる力を出し切ってください。

今年の流行語大賞は「三密」でした。元々「三密」は、密教の言葉。口で経を唱えて（口密）、手を合わせて（身密）、仏の教えを心に抱く（意密）ことが肝心だという教えです。これに倣って、受験生の皆さんに大事にしてもらいたいことは、自分の志望校を明言し、しっかり勉強して、自分を信じることです。先のことはわかりません。コロナ禍にしてもそう。どうせわからないなら、暗いことを考えるのではなく、明るい未来を思い描こうではありませんか！

「今の努力が未来を創る」が今年度の横断幕に書かれた言葉です。皆さんが頑張っているのは、単に試験の点数や入試の結果ではなく「未来」のため！遠くを見据えて頑張ってください。

Where there is a will, there is a way. 「意志あれば、道あり」



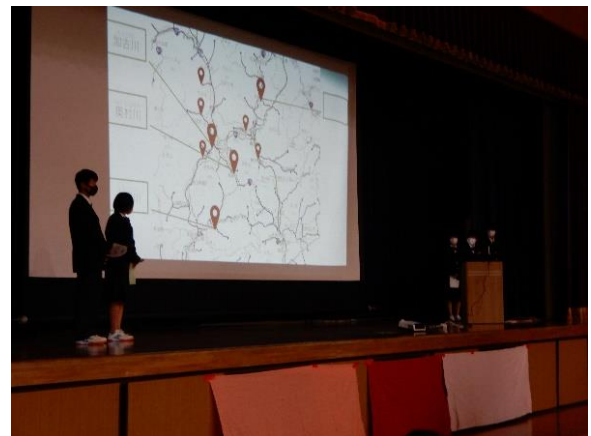
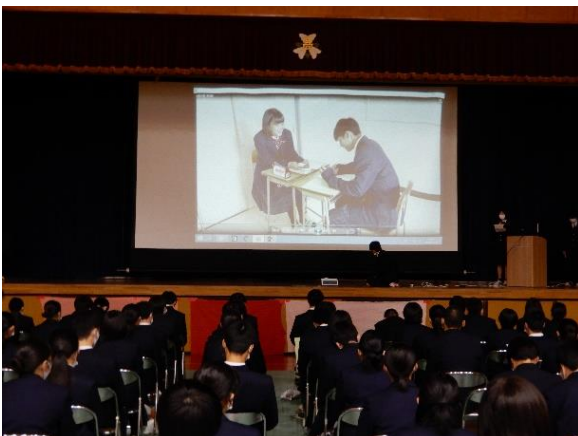
## 12月22日（火） 学年発表会 第1学年

昨年末、1学年、2学年ともに学年発表会を行いました。

1学年は体育館、2学年は柏陵会館2階くすのきホールにて、知の探究コースは全員、一般クラスは代表班がスライドやポスターを用いてプレゼンテーションをしました。私は1学年の一般クラス14組、知の探究コース8組の発表を聴きましたが、どの班も講師の先生方からいただいた指導を基に、フィールドワークやインタビューを重ねて、地域の魅力を発信していました。3時間という長時間、12月末の厳寒に耐え（?）、発表者以外の人もメモを取りながら熱心に耳を傾けていました。今回は一般クラスの発表内容をまとめてみたいと思います。

今回の発表テーマは、「市民の生活が良くなるために」「地域の祭り・イベントを盛り上げるために」「丹波市に観光・移住で人が来てくれるために」「地域にある宝物を見直して」の三つに分かれます。「市民生活」では、「高齢者の運転免許の自主返納率を上げる」「交通の不便さを自転車やバスで解消」「空地・空き家を活用して仕事を増やす」という内容が、「祭り・イベント」については、特に若者の参加を促すために「インスタ映え」「SNSなどを用いた発信」「効果的なキャッチコピーづくり」というアイデアが出されました。「観光地」としては「大河ドラマを活用する」「外国人向けのポスター」「他の地域をモデルに」、「移住者」を呼び込むためには「古民家利用」「サテライトオフィス」「リモートワークの促進」などが挙げられました。地域の宝として「丹波竜」「山」「丹波の工芸品」「なたまめ」「吉見伝左衛門」の魅力が紹介されています。

いずれも地域の魅力について考え、そこから見えてきた課題解決の方法を考えた良い発表でした。今後はこれまでの活動を文章にまとめていきます。来年度は「地域」から「世界」に発信していきましょう。





「丹 BAL I ・丹 BAL 台湾・探究 II」

研究推進部 吉田究・土元優一



表面に続き、こちらが年末の発表会の話。12月20日(日)に、2年1組8班と1年1組2班が甲南大学主催によるリサーチフェスタ(オンライン)に参加。翌21日(月)は3年1組の増田さんも英語によるプレゼンで参加し、知探コースによる探究発表会(マイプロジェクトアワードの予選を兼ねる。)を実施。ここまでは昨年末に報告をしました。そして、22日(火)は、1、2年生それぞれに3時間連続での探究・総合発表会。このことは表面にもあるとおりです。

4月から「丹 BAL I」と銘打ち取り組んできた1年生。当日のプレゼンは、パワーポイントあり、ポスターあり、動画ありと工夫の凝らされたものが多く、各班の意気込みが感じられました。アドバイスで聞いた徳島県神山町に電話で問い合わせをしたり、知探でも、市内各所の川裾祭りの実行委員長にインタビューをしたりなど、精力的に活動を行っていた様子で、その点にも感心させられました。

知探のある班が若年層の流出について述べていたのですが、その中のこんな発言が強く印象に残っています。

「クラスのみみんなにアンケートをとったところ、丹波を出たいという人が大半である一方で、将来は戻ってきたいという人も非常に多いことが分かりました。つまり、丹波を出たいという人たちは、丹波にいたくないのではなくて、出なくてはならない事情があるから出ていくのではないのでしょうか？」

「出なくてはならない事情」とは、もちろん具体的には例えば「大学がない」ことであり、少し抽象的なレベルで言えば、例えば「自分を磨くため」などと言えるのかもしれませんが。そして将来(「絶対」ではなくとも、タイミングが合えば)戻って来られるように、やはり我々(丹波地域の教育に関わる者たち)は、その可能性を産みつけておきたいように思うのです。(「人が優しい」とか「空気がきれいだ」とか「野菜が美味しい」なあってレベルだけじゃなく、「食の安全」とか「地域医療の充実」とか「持続可能性」なあってレベルの課題研究活動で！)

22日(火)、2年生は柏陵会館で同じように3時間の探究・総合発表会を行いました。2~6組は、新型コロナの影響で中止となった台湾修学旅行を「教材」に台湾学習を行ってきたので、その報告を行いました。発表方法は紙芝居! オンラインでの台湾の高校との交流や、後藤みなみさん、野嶋剛さんの講演、以前にもここに書いた台湾第一高級中学からのマスクのプレゼントなどもあり、本当に「行けなかったこと」が残念でならないと思わされるような、充実した内容でした。

台湾についての調べ始めたとき、高校生の目にする情報の多くが、情報誌やメディアで取り上げられることの多い、食べ物や観光資源、若者文化などでした。ニュースとしては政治や世界情勢に関するものもありましたが、高校生のアンテナには引っ掛かりにくいものでした。しかし、本の購読や講演会を通して、歴史や情勢などを学んでいくにつれ、より深く、そして、すでに知っていたことに関してもまた違った視点から捉えることができるようになったのではないのでしょうか。

また、知探(2年1組)は前日まで行ってきたプレゼンを一般コースに「披露」したのですが、一般コースの感想も、また聞いてみたいものだと思います。

